

〈「回転演算子による、ベクトルの回転演算」の概要〉

- ◎  $n$ 次元ユークリッド空間内の平面 $A$ 上のベクトルを角 $\alpha$ だけ回転させる

「回転演算子（複素数）」を、 $R_A(\alpha) = \cos \alpha + \sin \alpha i_A$  とする。

「 $i_A = R_A(90^\circ)$ 」は複素平面 $A$ の虚数単位で、これを「直交演算子」とよぶことにする。

- ◎ 平行でない2つのベクトル $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$ により $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$ のなす平面が定まり、その

上の「 $\mathbf{a}$ から $\mathbf{b}$ への回転演算子」 $R_{ba}(\theta_{ba}) = \cos \theta_{ba} + \sin \theta_{ba} i_{ba}$ が定まる。

- ◎ 「 $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$ から $R_{ba}(\theta_{ba})$ を求める演算」として「 $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$ の複素内積 $\mathbf{b} * \mathbf{a}$ 」を次のように定義する。

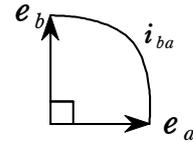
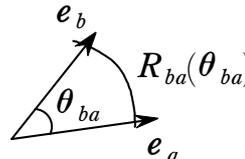
$$\mathbf{b} * \mathbf{a} = ba(\cos \theta_{ba} + \sin \theta_{ba} i_{ba})$$

単位ベクトル「 $\mathbf{e}_a = \mathbf{a}/a$ ,  $\mathbf{e}_b = \mathbf{b}/b$ 」に対しては、次のように回転演算子となり、

$$\mathbf{e}_b * \mathbf{e}_a = \cos \theta_{ba} + \sin \theta_{ba} i_{ba} = R_{ba}(\theta_{ba})$$

「 $\mathbf{e}_b \perp \mathbf{e}_a$ 」ならば直交演算子となる。

$$\mathbf{e}_b * \mathbf{e}_a = i_{ba}$$



- ◎ 直交座標軸「 $h_1$ 軸,  $h_2$ 軸,  $h_3$ 軸,  $\dots$ ,  $h_n$ 軸」とその上の基底ベクトル

「 $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3, \dots, \mathbf{e}_n$ 」を定めると各「座標平面の直交演算子 $i_{lk}$ 」は次式で求められる。

$$\mathbf{e}_2 * \mathbf{e}_1 = i_{21},$$

$$\mathbf{e}_3 * \mathbf{e}_1 = i_{31}, \mathbf{e}_3 * \mathbf{e}_2 = i_{32},$$

$$\mathbf{e}_4 * \mathbf{e}_1 = i_{41}, \mathbf{e}_4 * \mathbf{e}_2 = i_{42}, \mathbf{e}_4 * \mathbf{e}_3 = i_{43},$$

...

- ◎ 任意のベクトル「 $\mathbf{p} = p_1 \mathbf{e}_1 + p_2 \mathbf{e}_2 + p_3 \mathbf{e}_3 + \dots + p_n \mathbf{e}_n$ 」は基底ベクトル

$\mathbf{e}_1$ から $\mathbf{p}$ への回転演算子「 $Z_p = \mathbf{p} * \mathbf{e}_1$ 」で

$$\mathbf{p} = Z_p \mathbf{e}_1 = (\mathbf{p} * \mathbf{e}_1) \mathbf{e}_1$$

と表される。 $Z_p$ は次のように $\mathbf{p}$ の各成分を表すから

$$\begin{aligned} Z_p = \mathbf{p} * \mathbf{e}_1 &= (p_1 \mathbf{e}_1 + p_2 \mathbf{e}_2 + p_3 \mathbf{e}_3 + \dots + p_n \mathbf{e}_n) * \mathbf{e}_1 \\ &= p_1 + p_2 i_{21} + p_3 i_{31} + \dots + p_n i_{n1} \end{aligned}$$

を「ベクトル $\mathbf{p}$ の、ベクトル $\mathbf{e}_1$ に対する複素成分」とよぶ。

- ◎ 一般の「 $\mathbf{a}$ から $\mathbf{b}$ への回転演算子 $R_{ba}(\theta_{ba})$ 」も次式のように「座標平面の直交演算子 $i_{lk}$ 」の一次結合で表される。

$$\begin{aligned} R_{ba}(\theta_{ba}) &= (\mathbf{b}/b) * (\mathbf{a}/a) = \mathbf{e}_b * \mathbf{e}_a \\ &= (e_{b1} \mathbf{e}_1 + e_{b2} \mathbf{e}_2 + e_{b3} \mathbf{e}_3 + \dots + e_{bn} \mathbf{e}_n) \\ &\quad * (e_{a1} \mathbf{e}_1 + e_{a2} \mathbf{e}_2 + e_{a3} \mathbf{e}_3 + \dots + e_{an} \mathbf{e}_n) \\ &= (e_{b1} e_{a1} + e_{b2} e_{a2} + e_{b3} e_{a3} + \dots + e_{bn} e_{an}) \\ &\quad + (e_{b2} e_{a1} - e_{b1} e_{a2}) i_{21} \\ &\quad + (e_{b3} e_{a1} - e_{b1} e_{a3}) i_{31} + (e_{b3} - e_{b2} e_{a3}) i_{32} \\ &\quad \dots \\ &\quad + (e_{bn} e_{an-1} - e_{bn-1} e_{an}) i_{n n-1} \end{aligned}$$

- ◎ 以上のように、「ベクトル」, 「回転演算子」, 「それらの演算」は「各座標平面の直交演算子 $i_{21}, i_{31}, i_{32}, i_{41} \dots$ 」であらわされる。